

先進的あるいは特色ある教育課程	学校名等	課程
「各教科における探究活動の取組と課題」	千葉県立船橋高等学校	全日制の課程 普通科・理数科 定時制の課程 総合学科

ア 取組状況について

① 教育課程

(教育課程編成)

- ・本校の全日制の課程では、普通科と理数科を有し、普通科は、3年生で文類型と理類型に分かれる。また、平成21年度からSSHの指定を受け、先進的理数教育に取り組んでいる。令和6年度から指定第IV期に入り、千葉県全体の理数教育の一層の発展を目指している。課題研究等の理数系探究学習などの取組を通じて、生徒の探究心と探究力を育成している。(授業展開) ※以下、全日制における代表的な実践例を挙げる。

【国語科】

- ・「古典研究」(学校設定科目)(選択者)において、單元ごとにゼミ形式での授業をしている。担当者による「独自テキスト」を作成し、発展的な学習を展開している。(教科書と独自テキストを交互に展開している。)

【保健体育科(保健)】

- ・「保健」において、「課題研究」と称し、「授業内で学習した内容の中からより探求したいテーマを各自で設定し、発表に向け課題研究に取り組む。研究発表はさまざまなツールを使用し工夫を凝らしたものとする。研究・発表を通して健康について理解する。」という学習を展開している。

【外国語科(英語科)】

- ・「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」において、教科書を活用しながら準備型の英語ディベートを実施している。生徒は英字新聞を読んだり、英語のドキュメンタリーを視聴したりして、自身の立論の根拠となるエビデンスを収集している。時には、教科書の内容に賛否が分かれるような話題がある場合は、即興型の英語ディベートも取り入れている。

② 教員の指導力向上

(教員研修)

- ・担当者個々の研鑽をはじめ、授業力向上授業公開や他校への視察(他校からの視察の受入を含む)を積極的に行い、「質の高い授業」を担保できるような体制を構築している。
- ・外国語科の担当者は、県外の教員と英語ディベートの練習会を実施し、教員自身のディベートスキルを向上させ、授業改善に役立てている。(担当者個人での取組)

(外部人材の活用)

- ・特になし。(強いて挙げるならばALT等)

③ 校内組織

- ・教科内で情報共有しながら進めている。
- ・各教科でSSHの取組を参考にしながら、探究的な学びの授業形態を常に意識している。

④ 施設設備

- ・既存の施設(教室)を活用している。(プロジェクタやスクリーン、生徒所有のタブレット等)

⑤ 取組の成果の(都道府県)全体への普及・共有方法

- ・外国語科(英語科)では、千葉県高等学校教育研究会英語部会の講座「授業で使えるディベート入門講座」において、本校の授業実践を県内の教員に紹介している。

⑥ その他

- ・特になし。

⑦ ①～④でポイントになった事(優位順に箇条書き3つまで)

- ・SSHの指定を受けていることをはじめ、県の理数教育の拠点校として取り組んでいる。
- ・「探究的な学び」を各教科で常に意識し、実践に向けた教材研究をしている。
- ・既存の施設を活用した「探究的な学び」の実践を常に模索・検討している。

イ 今後の課題

- ・時間の確保や、「探究の学び」の実践における教員の資質向上、加えて、特に外国語科(英語科)では、学年間の計画(予定)の統一調整が課題である。(指導の差異をなくすため)